

◇著者紹介 執筆順（\*は編者，①所属，②主要論文・著書）

\*大賀 哲（おおが とおる）

序・あとがきに代えて

- ①九州大学大学院法学研究院准教授
- ②『東アジアにおける国家と市民社会—地域主義の設計・協働・競合』柏書房，2013年
- 『北東アジアの市民社会—投企と紐帯』（編著）国際書院，2013年
- 『国際社会の意義と限界—理論・思想・歴史』（共編著）国際書院，2008年

北田 暁大（きただ あきひろ）

1章

- ①東京大学情報学環教授
- ②『社会制作の方法—社会は社会を創る，でもいかにして？』勁草書房，2018年
- 『社会にとって趣味とは何か—文化社会学の方法規準』（共編著）河出書房新社，2017年
- 『責任と正義—リベラリズムの居場所』勁草書房，2003年

新嶋 良恵（にいじま よしえ）

2章

- ①武蔵野大学非常勤講師
- ②『戦後日本のメディアと原子力問題—原発報道の政治社会学』（共著）ミネルヴァ書房，2017年
- 『声を上げるマジョリティー—広く共有されたバックラッシュ現象としてのトランプ躍進』『メディア・コミュニケーション』67号，2017年
- 『エスニック・マイノリティの位置づけをめぐる政治—スチュアート・ホールによるマイノリティ表象についての分析を手掛かりとして』『慶應義塾大学大学院研究科紀要』78号，2014年

津田正太郎（つだ しょうたろう）

3章

- ①法政大学社会学部教授
- ②『ナショナリズムとマスメディア—連帯と排除の相克』勁草書房，2016年
- 『メディアは社会を変えるのか—メディア社会論入門』世界思想社，2016年
- 『戦後日本のメディアと市民意識—「大きな物語」の変容』（共著）ミネルヴァ書房，2012年

\*仁平 典宏（にへい のりひろ）

4章

- ①東京大学大学院教育学研究科准教授
- ②『社会保障—ネオリベラリズムと普遍主義化のはざままで』小熊英二編著『平成史〔完全版〕』河出書房新社，2019年
- 『「ボランティア」の誕生と終焉—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学』名古屋大学出版会，2011年
- 『労働再審5 ケア・協働・アンペイドワーカー—揺らぐ労働の輪郭』（共編著）大月書店，2011年

高原 基彰（たかはら もとあき）

5章

- ①関西学院大学社会学部准教授
- ②『政治と国家』盛山和夫ほか編『社会学入門』ミネルヴァ書房，2017年
- 『現代日本の転機—「自由」と「安定」のジレンマ』NHK出版，2009年
- 『不安型ナショナリズムの時代—日韓中のネット世代が憎みあう本当の理由』洋泉社，2006年

西田 亮介 (にしだりょうすけ) 6章

- ①東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授
- ②『情報武装する政治』KADOKAWA, 2018年  
『メディアと自民党』角川書店, 2015年  
『ネット選挙—解禁がもたらす日本社会の変容』東洋経済新報社, 2013年

加藤 伸吾 (かとう しんご) 7章

- ①慶應義塾大学経済学部専任講師
- ②『「親欧州政党」ポデモス—その政治的言説に見るラディカル・デモクラシーの実践としての「人民」による『民主主義の欧州』構築への試み』『上智ヨーロッパ研究』9号, 2016年  
*Lógicas de la reconciliación. Un análisis del debate parlamentario sobre la ley de amnistía de 1977.* Rafael Quirosa-Cheyrouze et al. (coords.) *VI Congreso Internacional Historia de la Transición en España: Las instituciones*, 2015.  
『モンクロー協定と『合意』の言説の生成 (1977年6～10月) —一世論, 知識人, 日刊紙『エル・パイース』』『スペイン史研究』27号, 2013年

富永 京子 (とみなが きょうこ) 8章

- ①立命館大学産業社会学部准教授
- ②『社会運動と若者—日常と出来事を往還する政治』ナカニシヤ出版, 2017年  
*Social Reproduction and the Limitations of Protest Camps: Openness and Exclusion of Social Movements in Japan.* *Social Movement Studies*, 16 (3), 2017.  
『社会運動のサブカルチャー化—G8サミット抗議行動の経験分析』せりか書房, 2016年

中井 遼 (なかいりょう) 9章

- ①北九州市立大学法学部准教授
- ② Does Electoral Proximity Enhance National Pride? Evidence from Monthly Surveys in a Multi-ethnic Society—Latvia. *Studies in Ethnicity and Nationalism*, 18(3), 2018.  
『デモクラシーと民族問題—中東欧・バルト諸国の比較政治分析』勁草書房, 2015年  
The Influence of Party Competition on Minority Politics: A Comparison of Latvia and Estonia. *Journal on Ethnopolitics and Minority Issues in Europe*, 13(1), 2014.

秦 正樹 (はた まさき) 9章・10章

- ①京都府立大学公共政策学部講師
- ②『若年層における候補者選択の基準—候補者の『見た目』と『政策』に注目したサーベイ実験より』『公共選択』70号, 2018年  
Has the 3.11 Disaster Brought about Conservatism in Japan? An Application of a Terror Management Theory. (共著) In: K. Endo et al., ed., *Reconstruction of the Public Sphere in the Socially Mediated Age*. Springer, 2017.  
「なぜ『わからない』が選択されるのか—サーベイ実験による情報提示がDKに与える影響の分析」(共著)『年報政治学』2017-1号, 2017年

山腰 修三 (やまこし しゅうぞう) 11章

①慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所准教授

- ②『戦後日本のメディアと原子力問題—原発報道の政治社会学』(編著) ミネルヴァ書房, 2017年  
「メディア・コミュニケーション研究と政治・社会理論—ヘゲモニー概念の展開とラディカル・デモクラシー」『マス・コミュニケーション研究』90号, 2017年  
『コミュニケーションの政治社会学—メディア言説・ヘゲモニー・民主主義』ミネルヴァ書房, 2012年

\* 山本 圭 (やまもと けい) 12章

①立命館大学法学部准教授

- ②シャンタル・ムフ『左派ポピュリズムのために』(共訳) 明石書店, 2019年  
『〈つながり〉の現代思想—社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析』(共編著) 明石書店, 2018年  
『不審者のデモクラシー』岩波書店, 2016年